

年間学習計画と評価について

学 校 名	学 年	教 科
内 部 中 学 校	2 年	美 術

1 学習のねらい等

学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵画（鉛筆デッサン） <ul style="list-style-type: none"> ・ ものの見方や感じ方を深め、対象の形や明暗をとらえて立体的に表現する。 ○ デザイン（平面構成） <ul style="list-style-type: none"> ・ 条件を基に、美しい画面を構成する。 ・ 伝えたい内容を印象的に強調して表す。 ○ 工芸（篆刻） <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の特徴を理解し、効果的に技法を用いて制作する。 ○ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作者の心情や表現の意図、工夫を理解し、表現されている内容を味わう。
使用教材	教科書：美術 2・3 上「学びの深まり」・下「美の探求」（日本文教出版） 副教材：美術資料（秀学社） 使用教材：鉛筆、スケッチブック、アクリルガッシュ、ケント紙、篆刻用石材など

2 評価の観点および方法

	評 価 の 観 点	評 価 の 方 法
① 関心・意欲・態度	【全単元共通】 <ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい作品をつくるため、課題を理解し、集中して制作できる。 ・ 作品やワークシートを期日までに提出することができる。 ・ 協力して準備や片付けができる。 ・ 自他の作品を大切に扱うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 準備物 ・ 提出物 ・ 定期テスト（筆記）
② 発想や構想の能力	【絵画】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象の特徴をとらえて、発想し構成できる。 ・ 自分のイメージに合った表現を考えて制作できる。 【デザイン】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 条件を基に、美しい画面を構成することができる。 ・ 独創的な画面を構成することができる。 【工芸】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 材料の特徴を理解し、美しい印面を構成することができる。 	アイデアスケッチ作品 定期テスト（実技）

③創造的な技能	<p>【絵画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の使い方を工夫して、材質感や立体感を表すことができる。 <p>【デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 配色を工夫することで、より効果的に表すことができる。 <p>【工芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性を生かし、細部まで美しく仕上げることができる。 	アイデアスケッチ 作品 定期テスト（実技）
④鑑賞の能力	<p>【全単元共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他の作品のよさや美しさを味わい、表現方法を感じ取ろうとする。 対象に向かう作者の姿勢や表現上の特色などを感じ取りながら、作品の魅力を味わうことができる。 	ワークシート 定期テスト（鑑賞）

3 学習計画

※1年時の内容は終了しています。3月に平面構成の鑑賞を予定していました。

	各単元と主な学習内容	観点別評価の具体例
一学期	絵画（鉛筆デッサン） デザイン（平面構成） 鑑賞（ポスター） 定期テスト（鉛筆デッサン）	②対象の特徴をとらえて、構成できる。 ③形の特徴や明暗を捉え、立体感を表すことができる。 ②条件を基に構想し、美しい画面を構成できる。 ③平ぬりの技法を用いて、美しく彩色できる。 ④色や形の工夫から、作者の意図を捉えることができる。 ②対象の特徴をとらえて、構成できる。 ③形の特徴や明暗を捉え、立体感を表すことができる。

二 学 期	デザイン（平面構成）	②条件を基に構想し、美しい画面を構成できる。 ③平ぬりの技法を用いて、美しく彩色できる。
	鑑賞（平面構成）	④作品の工夫やよさに気付き、自分の見方を深める。 お互いの発見や感動の喜びを尊重し共有することができる。
	工芸（篆刻）	②陰刻・陽刻の特徴を生かしたデザインを発想し、美しく構成することができる。 ③美しい文字を彫ることができる。
	定期テスト（鉛筆デッサン）	②対象の特徴をとらえて、構成できる。 ③形の特徴や明暗を捉え、立体感を表すことができる。
三 学 期	工芸（篆刻）	②陰刻・陽刻を生かしたデザインを発想することができる。 ③印材や用具の特性から制作の順序などを考え、見通しをもって制作することができる。
	鑑賞	④作品の工夫やよさに気付き、自分の見方を深める。 お互いの発見や感動の喜びを尊重し共有することができる。
	定期テスト（鉛筆デッサン）	②対象の特徴をとらえて、構成できる。 ③形の特徴や明暗を捉え、立体感を表すことができる。

4 学習方法についてのアドバイス

学習方法	学校	<ul style="list-style-type: none"> 真剣な態度で授業に臨みましょう。授業に対する姿勢が作品に表れます。授業と関係のないお喋りをしながらではよい作品はできません。 忘れ物に気をつけましょう。学校では貸し出しは行いません。友達から借りることもしません。自分の用具で作品づくりに臨みましょう。 提出期日を守りましょう。作品が提出されていなければ評価できません。
	家庭	<ul style="list-style-type: none"> 「ものを見る目」「ものごとを感じる心」を育てましょう。美術館や博物館はもちろんのこと、テレビ、雑誌、お店の看板やポスター、本の表紙や挿絵などを注意深く見てみましょう。また、身近な自然（草花、空、川など）にも心を傾けてみましょう。世の中にはたくさんの「いろ」と「かたち」があふれています。作品づくりのヒントを見逃さないよう、アンテナを高く持っていきましょう。 定期テスト前には、鉛筆デッサンの練習をしましょう。デッサンは、描けば描くほど上達します。あきらめずに取り組みましょう。